

## 業況2カ月続け改善

日本商工会議所がまとめた4月の全産業合計の業況DIは、▼11・5と、前月から+4・3ポイントの改善。電子部品や産業用機械関連を中心に製造業が全体を牽引したほか、インバウンドを含む春の観光需要を取り込んだ宿泊業・飲食業やレジャー関連業を中心とするサービス業の業況が改善した。深刻な人手不足や原材料費・燃料費の上昇、食料品・日用品に対する消費者の低価格志向を指摘する声は依然として多いものの、中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いている。

業種別では、建設業は、深刻な人手不足や資材価格の高止まりの影響が続く一方、都市部の再開発や設備投資、オリンピック関連を中心とする民間工事が堅調に推移し、ほぼ横ばい。製造業は、生産・輸出が好調な電子部品や産業用機械関連が引き続き高水準で推移し改善。卸売業は、人件費や運送費の上昇による負担増に加え、個人消費の鈍さを指摘する声がある一方、原材料や部品など好調な製造業に関連する商品が下支えし、ほぼ横ばい。小売業は、食料品や日用品を中心に消費者の根強い節約志

向を指摘する声はあるものの、客数増加により堅調に推移するインバウンドを含めた観光需要が寄与し改善。また、気温の上昇により春物商品が好調との声が多く聞かれた。サービス業は改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化も影響したことに留意が必要。春の観光シーズンに伴い国内外からの観光需要が好調な宿泊業・飲食業が全体を押し上げたほか、運送業やソフトウェア業の堅調な受注が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▼14・3（今月比▼2・7ポイント）と悪化を見込むものの、実体はほぼ横ばい。個人消費の持ち直しやゴールデンウィークに伴う観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費・燃料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、米国の保護主義的な関税措置の影響など世界経済・貿易に対する先行き不透明感を懸念する声も多く、業況感はほぼ横ばいの見通し。

（山形商工会議所など全国420

会議所、3941企業を調査）